



学習三原則 — 生活を正す 目標を持つ 継続する

育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059 岐阜県高山市下林町353
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911



ISO14001認証取得

「新たな社会の最前線へ」

育友会長 田中 宏



日頃は育友会活動につきましてご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。また、当会の最重要活動であります私学助成金の嘆願署名活動につきまして、毎年、毎年の事ながらお力添えを頂く事で、年々助成金額が増額されております。おかげをもちまして昨年度は生徒一人あたり37万5010円もの支給がされ、今年度も目標数を超える署名を集めることができましたこと感謝申し上げます。

学校活動では昔で言う一学期が終わり、3学年それぞれの立場によって学業に部活動にと専念している頃と存じます。夏期休暇中にあっても補習や遠征等、生徒に寄り添って日々ご指導を頂く先生方には重ね重ね感謝を申し上げます。

さて、30年ほど前から急速に普及し始めたインターネットや携帯電話の影響は非常に大きく、私達の生活環境は目まぐるしく変化しています。ネット上の仮想空間の誕生(ChatGPT)などに代表される人工知能の発達で、この世は新たな社会(Societas)に突入したと言われています。第一段階の狩猟社会から、農耕社会、工業社会、情報社会を経由して、五段階目となる仮想と現実が混同する社会になってきたというのです。2020年から始まり、現在進行中の百年ぶりとも言われる教育改革は、まさにそんな社会に適応できる人材を育てるカリキュラムであり、もはや私達昭和のおじさんおばさんが理解できる範疇を優に超える世の中になって参りました。

先日、大学の育友会に参加してきましたが、少子化とコロナ明けの人材不足の影響で現在の就職活動は学生優位の売り手市場なのだそう。ただ、どの大学も高い内定率を保っていますが、大手有名企業の内定倍率に至っては未だに50倍を超え、大学入試よりも狭き門であることを理解して欲しいと説明がありました。大学側も昔と比べて就職支援が充実しており、企業の採用動向を見据えたカリキュラムなどを編成し、就職率を高

めることで学生数の確保に苦心している様子が垣間見られます。現在の大学には、企業が求める人材を育て、また育つ人材を高校生に求めるという図式があるようで、どうも大学入試のカギはここにある気がしてなりません。

教育改革は、義務教育を含めて多くの教育現場に負担を強いている状況ではありますが、是非ともこの難産を乗り越えて、いざ本格化する新たな社会を生きぬいていく力、願わくはその社会の最前線で活躍できる力を持った人材を輩出できる、そんな西高校であって欲しいと思えますし、生徒諸君にはこの変わり行く時代を大きなチャンスと捉え、それぞれの夢を実現して欲しいと思っています。

「日本でいちばん大切にしたい高校」へ

校長 小林 隆徳



1月の事案につきまして、は、多くの皆様にご心配をかけ、不安を抱かれた方もおられることと察し、改めてお詫び申し上げます。この件につきましては、学園人事の刷新、飛騨学園特別調査委員会による調査報告書の作成と監督官庁である県への提出、被害額の回収と、行うべき事は一つ一つ誠意を持って行っております。このことによる生徒、保護者のみなさんへの影響はありません。今後再発防止に向け、諸規定の見直し、学園の信頼回復と更なる改善のための施策に取り組んでおりますので、どうかご安心ください。生徒、保護者、学園を守る、経営者として学園の存続・発展に最善を尽くす。そのことを肝に銘じつつ、「動機善なりや、私心なかりしか(稲盛和夫語録)」を座右の銘とし、学園経営を行って参りたいと存じます。

さて、本校生徒たち、学業も部活動も本当によく頑張っています。この3月にはウインドアンサンブル部を率いてきた垣内陽香理部長が、ウインドブルそして特進IIクラスで初めての医学部医学科

現役合格を果たしてくれました。慶應義塾大学の教授、学生の皆さんにご協力いただきながら進めてきた、本校の「探究飛騨」(K組(特Ⅱ))をも対象にした最初の生徒です。この学年には、医学部希望者も多く、飛騨地区の医療に関するテーマを扱うグループも多かった年でした。彼女はひとり、「飛騨市の小児医療体制」をテーマに取り組みました。飛騨市の地図上に小児科をプロットし、曜日ごとに診療、休診を色分けし、医院までに車でかかる時間をGoogleで調べ上げました。その結果、金、土、日を中心に診療を受けにくい状況が在るのではないかと疑問を持つようになりました。飛騨市にもインタビューし、「休診日でも、平日については看護師が常駐、夜間や休診日は電話が看護師に転送され、医師と連絡を取り合っていること、その他小児救急電話相談のシステムなどが活用され、不足部分を補っていること、もっと大きな課題として現在は高齢者の増加により、高齢者に合わせた医療にならざるを得ないということ」等聞き取り調査の中で知らされます。彼女の課題意識は広がります。今回小児医療を中心に調べたが、更に他の地域、他の診療科など、様々な角度から研究したいと述べています。これまでも数々の医学部希望者が「探究飛騨」での研究などをフル活用して、医学部合格を果たしてくれています。が、こうした探究の経験が、特Ⅱであった彼女の医学部合格の助けになっているならば、望外の喜びでありますし、これからの慶應義塾大学長田先生方との関係を永続させていきたいと考えているところです。

子供たちの数が減っていく、この時期に経営者となり、学園を変えなければならぬ、こういうときだからこそ本校改革の軌跡をたどることに、一定の意味があると思います。しばらく連載形式で本校改革の歴史をひもとかせていただきます。

先代、故打保正守氏らが、改革のため故谷口耕平氏を本校校長に招聘したことは、前号で述べました。

この学校を改革するに、不転の決意で来られたことは、岐阜市長に屋敷があるにもかかわらず、高山に家を建てられたことでも分かります。

本校就任の職員会議での挨拶は、Samuel Ullman (サミュエル＝ウルマン)の「Youth (青春)」のごとくに行われました。この詩の一部を紹介します。

Youth is not a time of life. it is a state of mind. (青春とは人生のある期間ではなく心の持ち方を云う。)

it is a matter of the will, a quality of the imagination, a vigor of the emotions.

(たくましい意志、ゆたかな想像力、燃える情熱を云う。)

This often exists in man of sixty more than a boy of twenty.

(ふだには20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。)

Nobody grows old merely by a number of years. We grow old by deserting our ideals.

(年を重ねただけで人は老いない理想を失うふざ初めて老いる。)

When the aerials are down, and your spirit is covered with snows of cynicism and the ice of pessimism, then you are grown old, even at twenty, but as long as your aerials are up, to catch the waves of optimism, there is hope you may die young at eighty.

(靈感が絶え、精神が皮肉の雪に覆われ悲嘆の水に閉ざされるとき、20歳であろうと人は老いる。頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、80歳であろうと人は青春にして己む。)

…県立校長(勇退後)の着任となる自らを鼓舞する意味もあったでしょうが、当時の本校職員全員の意識を変ええる意味合いもあったと思います。

谷口耕平校長先生のこの挨拶に、新任の私は身震いを覚えました。

今回は、『学習三原則』を中心に述べたいと思います。

Noblesse Oblige



活気ある高山西高校



生徒は、自己の殻を破って、自分の進むべき道を見出すことで大きく成長します。生徒が将来の夢の実現に向けて研鑽し、人間として成長することを、今後も期待しています。

今年度は173名の生徒が入学してくれました。「生徒一人一人が日々の学校生活を満足して送ることができるよう」を目標に掲げ、授業はもちろん、部活動においても、その他の活動においても、お子様の将来を見据えて指導にあたっています。ご理解とご協力をお願いします。

西高校らしさが詰まったこれまでの学校行事



ここまでの学校行事についてご報告します。5月30日(木)には、創立記念講演を実施しました。今年度は腰塚勇人氏を迎え、演題「命の授業」で講演をして

教頭 横田 匡司

いただきました。腰塚氏は元教員でかつてテレビ番組「アンビリーバボー」にも出演されました。自分を大切にしながら、人のことも大切にするので、人の心を暗くする「ドリー夢キラ」ではなく、人を元気にできる「ドリー夢メーカー」になってほしいという腰塚さんの優しくも強いメッセージが、とても心に響く講演会でした。7月4日には、西高祭を実施しました。コロナ前に完全に戻した形で、盛大に開催しました。2・3年生はステージ発表、1年生と茶華道部・美術部は展示企画を行いました。どの発表や企画も大いに盛り上がりました。また、名物キッチンカーも10台来場し、地元食材を使ったメニューやクレープなどが販売されていて、非常に賑わっていました。コンテストの順位は以下のようでした。Tシャツコンテストは、1位3K、2位3J、3位2K、ステージ企画コンテストは1位



3J、2位3K、3位3G、Instagram ショート動画コンテストは1位3J、2位2Kでした。多くの保護者の皆様にもご来校していただきました。生徒の学校での姿を見ていただけたことはたいへん喜ばしいことです。各ご家庭で西高祭の活動をいろいろ支えていただいたと思います。ご協力ありがとうございました。9月3日には体育祭が予定されています。文化祭同様、コロナ前に戻した形式で実施できると思います。学校でも良い体育祭になるよう企画、運営をしてみたいので、ご協力お願いします。また、是非ご来場ください。



それぞれの目標にむけ 最後まで頑張り続けた 昨年度の進路実績

ここで、昨年度の進路実績について報告します。本校のキャッチフレーズは「夢かなえる」です。昨年度も生徒たちが本当に努力し、「夢をかなえ」、就職・進学において以下のような実績を残すことができました。まず、就職状況については、就職希望者18名(うち公務員7名)全員が本人の希望する企業から就職の内定をいただきました。企業の方からは、「西高の卒業生は、根気強く頑張り続けてくれる。また仕事に責任感をもって取り組んでくれるため、是非就職してほしい」とよく言っていたできます。企業の方が学校を訪れてくれた際にも、大きな声で挨拶をする西高生の姿をみて「清々しくて、すばらしい」とお褒めの言葉をいただきました。卒業生の企業での努力、日頃の生徒の頑張りが評価され、企業から求人非常にとたくさんいただいております。9月16日から始まる就職試験のために、今は仕上げの段階にあります。次に、進学における合格状況ですが、4年制大学261校(うち国公立51校)、短期大学13校、専門学校34校でした。名古屋大学、東北大学など旧帝国大学や岐阜大学医学部といった国立公立大学医学部や、慶應義塾大学や早稲田大学をはじめとする私立大学にも多数合格しております。それぞれの目標にむけて、努力し合格を勝ち取ってくれました。「受験の天王山」といわれる勝負の夏のまっただ中ですが、これからの努力で大きく伸びる可能性は十分にあります。3年生の生徒諸君には、最後まで諦めることなく、より一層の努力を期待しています。



活気に満ちた部活動と その実績

東海総体、インターハイ岐阜県予選及び甲子園岐阜県予選、飛騨地区総体もコロナ前と同じ形式で行うことができました。一試合一試合、勝利を信じて、プレーする生徒はもちろん、ベンチに入れない、試合に出られない生徒も必死になつて声援を送り、チームの一員として一生懸命に応援していました。すばらしい光景でした。特に3年生は、部活動を通して多くのことを学んだことと思います。この経験を今後になかしてほしいと強く

願っています。全国高校総体(インターハイ)は、九州北部地方で開催されます。(この会報が配付されるときには、終了しています)インターハイには、レスリング部では、2K堤大智くん、飯山福斗くんが出場します。また、剣道部では、女子団体と女子個人で3K小山詩乃さんが出場します。アーチェリー部では、男子個人で、3I河合朔哉くんが出場します。本当におめでとうございます。インターハイでのさらなる活躍を期待し、全校で応援しています。結果は、本校ホームページやInstagramに掲載します。是非ご覧下さい。また、東海総体にも、レスリング部、剣道部、陸上部、アーチェリー部、ハンドボール部、男子バスケットボール部が出場しました。その中で、剣道女子個人で、3K小山詩乃さんが1位、男子バスケットボール部が3位など、輝かしい成績をおさめてくれました。情報ビジネス部は、昨年も全国制覇を達成しました。今年も4連覇を目指し、頑張り続けます。また、ウインドアンサンブル部も県大会、東海大会、さらに全国大会を目指して頑張っています。そのほかにも県大会や地区大会で全力を尽くして頑張った生徒がたくさんいます。非常に誇らしいことです。

本校のキャッチフレーズは「夢かなえる」そして「生徒が自慢の高校」です。誇らしい生徒をより輝かせるために、生徒のそれぞれの夢(目標)をかなえられるために、教員一同指導して参ります。大きく変化している現代において、西高も変化、進化し続けるよう、努力、研鑽して参りますので、保護者の皆様方には、より一層のご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

「巣立ちに向けて」

1年保護者 佐藤 透子

息子が志望校を高山西高校に決めたのは中学3年生の秋でした。本人の中学校生活を振り返ってみると、部活動をしながら大学の受験勉強をする高校生活は、時間的にも体力的にも難しいのではないかと不安からスタートしました。オープンスクールの姿を拝見し、熱心な先生方のお話を伺いました。高山西高校なら勉強に集中し、自分の進路(それが何なのかも含めて)を実現できるかもしれないと感じて決意しました。

受験前の半年は併設の塾(飛昇館)でもお世話になり、入学前から先生方の魅力に引き込まれていました。先生方のわかりやすく熱の入った指導に息子もどんどん受験勉強に集中し、無事合格することができました。自分の高校生活をイメージできたことも飛昇館でお世話になって良かったことの一つです。

高校生活の中で大事にしたいことの一つに、息子の生活力を上げるという目標があります。朝7時のバスに乗って学校に行き、帰ってくるのは夜8時半から9時頃になります。そんな生活の中で「家族の一員であるために自分でできること」は何なのか、一緒に考えました。まずは自分で朝起きること、朝食前に犬の散歩に行くこと、お弁当箱を洗うことの3つを約束しました。また、言われたことだけでなく、自分から気付けたいことは進んで行うように声掛けをしています。高校3年間で自分の進路を実現するための勉強は学校で取り組んでくれるのももちろん、将来飛騨から出て親元を離れて生活するために、毎日の生活をきちんと整えることが親の大事な役目だと思っています。

また、息子の食生活がすべて家での食事になったことで、食の大切さも実感しています。



ます。これまでの義務教育の中で提供されていた給食が、季節の野菜、地元料理、行事食、栄養バランスなど、いかに子供たちの生活を豊かにしていたかを痛感しました。そんな素晴らしい給食には到底及びませんが、お昼ご飯にお弁当箱を開けるのが楽しみになるように、あと半日頑張る勉強しようと思えるようなお弁当作りに励んでいます。

高校生活が始まってもう4か月が過ぎます。息子が巣立つ日は1日ずつ近づいています。マイペースでのんびり屋の息子ですが、高山西高校という真剣に勉学に励み、生徒会という大役も頂き、先生や仲間と切磋琢磨しながら、学力も社会性も伸ばせる環境に感謝しています。子供への押し売りになってはいけません。自分だけの力でなく周りにサポートされて高山西高校へ通学できるという感謝の気持ち忘れず、3年後に実現した進路できちんと生活を送れるための力を培えるように家族も一緒に日々頑張っていくように思います。

「高校生らしさ」

2年保護者 垣内 康介

今から28年前、私も息子と同じ西高校の生徒だった。しかも同じバスケット部。

当時のバスケット部は今のようには全国大会を目指すような強豪チームではなく県大会出場が関の山、平々凡々なチームだった。悔しいが当然息子の方が自分より遥かに上手い。息子は毎日忙しいながらもレベルの高い環境でバスケットができて悩みなながらも充実した日々を送っているように見える。

西高校のいいところはズバリ高いレベルで勉学、部活動に専念できることだろう。

言い方を変えたらそれ以外をやる暇と権利を与えてもらえない(笑)

校則と教師が厳しいということだ。

これは今に始まったことではなく私が在学中もそうだった。しかも今では難しいがありがたいことに愛の鞭もあった。

当時の私はバスケットだけではなく遊びにも夢中だった。あまりの厳しさに仲間と文句ばかり言っていたが、皆充実していたように思う。

厳しさの中でしか得られない喜びはある。後悔なく今も自信を持ってバスケットをやってきたと言えるのは間違いなく西高校の環境のお陰である。

弱いチームにもかかわらず先生がとてもし生懸命だった。今思うと感謝しかない。これは今でももちろん受け継がれている。息子の担任、部活の先生などの話を息子、妻から聞くが本当に真剣に教師をしてくれていると思う。私ももうちょっと真面目に生きなければと戒めてくれる。

ちやらんぼらん私は当時、背伸びして大人のマネをすることもあった。今大人になつてそんな若い子を見ると滑稽に見える。私もそう見られていたと思うことも恥ずかしい。人間、年相応の格好良さというものがあ

その時々でやりたいこと、やるべきこと



を一生懸命にやっている人が格好いいのではないだろうか。

高校生の時にしかできないこと。〇〇らしさという言葉はあまり好きではないが、「高校生らしさ」、それを一生懸命にやっている姿は文句なしに格好いい。

息子のバスケットの試合を時々見に行くが、みんな嫉妬するほど格好いい。

試合に出なくても大声で応援し盛り上げている生徒も、尊敬するほど格好いい。

進学を目指して勉強し、遅くに帰宅していく生徒、日本の未来は明るいと思わせてくれる。痺れるほど格好いい。

そんな環境が整う西高校で息子が過ごせることを嬉しく、誇らしくも思う。

西高校は素晴らしい学校だ。しかしその分授業料は高い。

息子よ、無駄にしてくるなよ。

「目標に向かって」

3年保護者 小山和彦

娘は今年生で夏の最後の大会を迎えようとしています。小学一年生で兄妹と共に剣道を始め、二年生の冬の小さな大会で銀メダルをもらいました。そこからやる気が火が付き、以来一度も稽古を休むことがありませんでした。中学生になってからもその熱意は失われず、「剣道で個人団体とも全国で活躍したい」との目標を持ち、高山西高校への進学を決めました。

親元を離れる日、これまでの子育ての中で大切なことを伝え切れていない事が沢山あるのではないかと焦燥感に駆られたことを思い出します。そして取るに足らないアドバイスをし、幼少期より馴染んだキャッチ

ボールを日が暮れまでやり、長野から送り出しました。慣れない寮生活に最初は苦労したかと思えます。同部屋の先輩にも恵まれ、楽しそうにたこ焼きを囲む写真に胸を撫で下ろしたものでした。

一年生の時は全国大会に先輩方に連れて行ってもらいました。二年生になると主力メンバーとなり、選抜大会とインターハイ出場、春夏の東海大会の優勝等の結果を残し、親とすれば良い思いをさせてもらいました。

しかし一番印象に残っているのは、国体予選です。娘の負けが原因で岐阜県代表が本国体へ進むことができませんでした。「先輩達と国体に出る」と強い決意を持って臨んだ試合で負けてしまい、先輩達との最後の試合になってしまったのです。その夜、先に帰省していた娘は座布団に顔を伏せ、とうとう顔を見ることができませんでした。三年生になるとキャプテンを任せられ、チームを引っ張っていく立場になりました。姉の高山西高校で頑張る姿を追って、今春、妹も入学しました。

親には言わないだけで他にも悔しい思いや辛い経験もしたでしょう。それを乗り越えて、入学当初に思い描いていた自分の姿に少しでも近づけるよう、残りわずかな高校生活を全力で駆け抜けてほしいです。仲間と共に、笑って高校生活を終えてほしいです。

最後に、娘の成長を支えて下さっている先生方、保護者皆様、先輩や仲間たち、顧問の先生に感謝申し上げます。いつもありがとうございます。



育友会活動報告

〈2024年度 前期(4月~8月)〉

4月 8日 / 育友会入会式

新1年生173名とその育友会員を迎える。

4月17日 / 第1回育友会役員会

5月 8日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会

第1回常任幹事会 **岐阜・十八楼**

5月 9日 / 育友会総会

5月31日 / 岐阜県高等学校PTA連合会定期総会

オンライン会議

6月 5日 / 岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会

岐阜・十八楼

7月~8月上旬 / 私立高等学校補助金増額署名依頼

「日本一になる!!!」

1年L組 大西 結心

私は小さい頃から音楽が大好きです。中学校でも吹奏楽部に所属していました。中学2年生の夏、定期演奏会で高山西高校ウインドアンサンブル部の演奏を聴いたとき、私もここでこんな素敵な演奏をしたい、音楽を続けたいと思い、それからずっと高山西高校に入りたいたいと思ってきました。始めは中学校の知り合いがいなかったことや、初めての寮生活で不安でいっぱいでしたが、今では大好きな音楽に熱中できる生活が幸せです。その反面、壁に当たったこともたくさんありました。

最初の壁は、コンクールメンバーを決めるオーディションです。私はアルトサクソスを担当しているのですが、人数が多く、オーディションを経て他の楽器に何人か変えなければいけない状態でした。絶対にオーディションに受かりたいと思っていました。

しかし、一回目のオーディションで落ちてしまいました。指摘を受け、自分の練習不足を実感しました。それから自分の音を磨いたり、指摘されたことを直せるように基礎練習をしたりして、次のオーディションに向けて練習を繰り返しました。その甲斐もあって、2回目のオーディションで受けることができました。嬉しさを感じると同時に、諦めずに頑張ったよかったですと心底思いました。

そして今、コンクールに向けての練習で壁に当たっています。コンクールの練習は本当に細かく、地道な練習です。周りの仲間と自分を比べて焦りや嫉妬を感じたり、できない自分が悔しくて泣いてしまったりすることもよくあります。また、周りにへただと思われるのではないかと怖くもなります。けれども、「あなたならできるよ。」と言ってくれる周りの仲間、厳しくも温かく指導し



てくださる先輩方と先生方、そして応援メッセージを送ってくれる家族が支えてくれています。そして、ウインドアンサンブル部が目標に向けて練習を続けられるのは、私たちに期待し、応援してくださる大勢の方々のおかげです。だから私は「上手になりたい。」とまた前を向いて練習することができ

ます。
私は高山西高校に入学してよかったと心から思っています。正直、これから三年間、勉強、寮生活、部活を両立していくのに不安はありますが、高山西高校の努力できる環境で、精一杯努力して目標へと近づきます。頑張れるのは仲間や家族、先生方、ウインドアンサンブル部を応援してくださる方々が支えてくださるからです。これからも環境に感謝して、夢への努力を続けます。

「日々成長」

2年G組 牧坂 さよ

高校での生活も早いもので二年目になりました。特段拔き出た才能があるわけでもなく、いつも口先ばかりで結局行動に移すことのできない意志の弱い自分を反省する毎日ですが、ひとつ、そんな私を成長させた出来事がありました。

私には入学時から持ち続けていた目標がありました。それは、英語デイベートに挑戦することです。中学三年生の夏にオーブンスクールで見学させていただいた、練習試合をする先輩方の姿。凄まじいスピードの英語で繰り広げられる討論にただ圧倒され、私もいつかこの場に立ってみたい、そう思ったことを今でもはっきりと覚えて

います。
二年生に進級してデイベートの授業が始まり、いざ飛び込んだ憧れの世界。しかし、そこには浅はかな私の想像を遥かに超える、高い壁が待ち受けていました。思うようにいかないことばかり。専門知識が問われる論題、全く聞き取れない、話せない英語。次第に自信をなくし、私には向いていなかったのだとひどく落ち込みました。

向いていないのなら続けてもしょうがない、このまま続けて英語を嫌いになるくらいならもうやめようか、そう考える一方で、簡単に諦めてしまっている？西高でデイベートをするのがずっと夢だったんでしょ？と引き止める自分。葛藤の中、答えが出せずにいました。

ここで諦めてしまうのは勿体無い。やりたいことをやればいいじゃない。そう言ってくれた先生方や家族、友達。いつも支えてくださる大切な人たちの声が、私はどうしたいのか、もう一度心を見つめ直すきっかけをくれました。

初心忘るべからず、とはいうものの、向き不向きにばかり囚われていた私は、一番大切で、忘れてはいけない思いを忘れてしまっ



ていました。
英語を話している瞬間に感じるわくわくが大好きで、そんな自分が大好きで、その思いだけは絶対に変わらない、これからも変わることはない。そう確信したとき心が軽くなり、私なら絶対に大丈夫だから、もう一度挑戦してみようと思えるようになりました。

夢を叶えるための努力は、決して簡単なことではありません。きっと、これから幾多もの壁が立ちちはだかるのだと思います。それらを軽々と飛び越えられる強さは今の私にはまだ足りないことはわかっています。それでも、自分が大好きなことならば自分自身を奮い立たせる原動力となり、人一倍高く飛べる気がしています。

どんな毎日もすべて私のものびしろです。もっともっと成長していく人生が楽しみです。



「西高で得た一生の財産」

3年G組 堀尾亮介

私は中学生の頃から大学進学を考えていました。私は高校3年間のすべてを勉強に捧げようと覚悟を決め、高山西高校の特進クラスへの進学を決意しました。今、高校生活を振り返ってみると、確かに勉強に対して熱くなり、ストイックな日々を送ってきましたが、それ以外の場面でも印象に残ったところが非常に多くありました。その中でも、特に印象に残った3つのことを取り上げたいと思います。

1つ目は、クラス内での人間関係です。

西高校では基本的にクラス替えと言うものは存在しません。そのため、入学前は「クラス替えは年に1回の楽しみなのにそれが無いのか…」とマイナスなイメージを持っていました。しかし、同じメンバーと3年間生活した今では、クラス替えが無くても、いやむしろクラス替えがないからこそ味わえる感覚があるのだと思います。その感覚には、3年間苦業を共にしてきた仲間間には、固い固い絆や絶対的な安心感だと思います。そのような関係を築くことができた仲間は、私にとって一生の宝になります。

2つ目は、英語デイベートの活動です。入学当初、私は英語デイベートに対して全く興味がありませんでした。しかし、授業の中でデイベートをする中で、魅力を感じ、どんなのめりこんでいきました。また、他校との試合を通して全国各地に多くの知り合

いできたことも忘れ難い経験となりました。彼らと交流することで新たな価値観に触れられたことが、自身を顧み、成長させるきっかけにもなりました。このような体験は、デイベートをやっていなかったらできなかったと感じます。本当にデイベートをやって良かったです。

3つ目は、生徒会活動です。その中でも特に、文化祭の運営に携わったことは忘れられません。私は1・2年生の間は生徒会執行部には入っておらず、3年生の前期になつていきなり生徒会会長という大役に就きました。未経験の生徒会会長で、はじめは本当に戸惑いました。しかし、3年生を中心としたベテランの生徒会役員の仲間が私に肩を貸してくれました。そのおかげで、文化祭という行事を大成功に導くことができました。仲間という存在のありがたさや再度認識し、以前の私よりも強くなった気がします。ここでもがいた経験は大学へ進学してからも、社会へ出て仕事をすることになつてからも、必ず何らかの形で役に立つはずですよ。

みなさんは、西高の特長と聞くと、「ストイックで大変そう」「勉強ばかりで苦しそう」といったマイナスなイメージを持たれると思います。私もそうでした。しかし、実際に3年間生活してみると、決して勉強ばかりという訳ではありません。勉強以外の面でも非常に充実した生活を送ることができました。

さて、私はまもなくこの学校を卒業し、地元を離れることになりました。そこには、これまでとは全く異なる困難も待ち受けているかもしれません。そんな時にいきてくるのは、高校生活の中での経験を通してつけてきた力だと思えます。その力を武器に、今後の人生もたくましく生きていきます。

令和6年

部活動速報

〈前期〉

2024年度 レスリングアジア選手権大会(ヨルダン)

●第3位 堤 大智(2K)

『ありがとうを強さに変えて北部九州総体2024』 インターハイ

- レスリング 男子フリー 堤 3位
- 剣道 女子団体 ベスト16
- 女子個人 小山 ベスト16

東海高等学校 総合体育大会出場

- レスリング 男子フリー 飯山3位
- 男子グレコ 飯山2位
- 女子フリー 今井3位 直井3位
- 剣道 女子個人 小山優勝
- 男子団体 第5位
- 男子バスケットボール 第3位

岐阜県高等学校 総合体育大会

- 陸上 男子 1500m 坂上5位
- 走幅跳 鈴木6位
- 400mH 若田3位
- 3000mSC 白川2位

- 八種競技 鈴木3位
- 4×100m 第5位
- 陸上 女子 1500m 田中5位
- 走幅跳 櫻野2位
- 砲丸投 三井7位
- 3000m 田中4位
- 三段跳 櫻野4位
- アーチェリー 男子団体 準優勝
- 女子団体 第3位
- 男子個人 河合1位 舛井7位
- 浅尾8位 長瀬9位
- 羽根14位

- ハンドボール男子 第3位
- 女子バスケットボール ベスト8

飛騨地区 総合体育大会


- 団体競技優勝 優勝旗 7本獲得!
- ※バスケットボール競技は開催されませんでした
- ◆剣道男子・女子 ◆ハンドボール男子
- ◆バドミントン男子・女子
- ◆卓球女子 ◆陸上男子

第79回 東海吹奏楽コンクール 高等学校A部門 出場

- ウインドアンサンブル部 金賞




赤団



団長 松谷 侑 (3J)

今年の体育祭は、みんなが自分の出せる力を出し切り「勝ちにこだわりつつも楽しむ」そのような体育祭にします。そのため団幹部が中心となって、クラスだけではなく学年を超えての繋がりを大切にして、一人一人が協力し助け合い赤団一丸となって頑張ります。赤団は元気あふれる生徒がたくさんいるので、自分たちだけではなく見てくれる先生方、保護者様まで楽しませます。また、体育祭を行うにあたって、関わってくださった方々と体育祭ができることへの感謝を忘れず、思い出に残る体育祭にします。


青団



団長 松尾 優人 (3H)

今年の青団の団テーマは「BIG WAVE」です。青団全員が一丸となり、競技に対しても、応援に対しても全員が持っている力を十分に発揮し、体育祭を青に染めるビッグウェーブで他の団を圧倒します。去年は赤団、青団の同率優勝でしたが、今年は青団単独優勝を目指したいと思います。この体育祭が出来ることへの感謝の気持ちを忘れず、全員が楽しみ、笑顔で、高校生活の最高の思い出となる体育祭にします。

黄団



団長 益田 彩良 (3K)

今年の黄団の団テーマは「一心必笑」です。黄団全員の心をついに、最後の最後までたくさん笑って、楽しかったと思って終われる体育祭にしたいという思いが込められています。学年を超えた繋がりに引き出される、どの団にも負けない黄団持ち前の団結力と盛り上がりとその勢いで、黄団らしさ全開で最後まで諦めずに戦い抜きます。黄団全員が一丸となって、全力で楽しみ、全力で勝ちにいき、笑顔溢れる体育祭を創り上げます。

編集後記

今年度から国立乗鞍青少年交流の家での合宿が再開され、西高らしい行事がすべて再開されました。また、各種大会やコンクールからも制限が撤廃され、不自由を強いられることも少なくなりましたように思えます。生徒たちはのびのびと活動しています。生徒たちは普段の学校生活とは異なる、非日常を楽しみ、仲間との交流を深めています。また、様々な苦難に遭遇することもあります。乗り越えようと試行錯誤を重ねて努力しています。勉強や部活動だけではなく、対人スキルなど、人として成長しています。そのような姿を見て、私自身の老いを感じることも、どのように教える導いてやるのかと考える次第です。今後のさらなる成長を期待したいと思います。

(文化委員長)



テーマ
あつもり 熱盛

今年の西高祭も大盛況に終わりました。天候にはあまり恵まれませんでした。去年から大いにバージョンアップできたと思います。昨年度も西高祭に携わっていたこともあり、その反省をもとに、プログラムを変えたり、キッチンカーの数を増やしたりして、より多くの人を楽しめるように改善しました。初めは本当にこれで良いのかと不安になることもありましたが、当日の全校生徒の笑顔や盛り上がりを見て、そんな不安は吹き飛びました。「熱盛」というテーマを達成できた、むしろそれ以上の西高祭になったと思います。

ステージ企画
1位:3-J 2位:3-K 3位:3-G

クラスTシャツコンテスト
1位:3-K 2位:3-J 3位:2-K

Instagram ショート動画コンテスト
1位:3-J 2位:2-K

